

自己評価報告書

2021年5月12日現在

埼玉福祉保育医療専門学校

2021年5月12日作成

目 次

1 学校の概要等	1	
学校の概要	4	
自己点検・自己評価に対する姿勢	6	
学校関係者評価委員会の構成と意義	7	
教育理念	8	
学校の目標	9	
学校組織の整備	10	
学校組織の整備	11	
本年度の重点課題	14	
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	15	
1-1 理念・目的・育成人材像	16	
基準 2 学校運営	18	
2-2 運営方針	19	
2-3 事業計画	20	
2-4 運営組織	21	
2-5 人事・給与制度	23	
2-6 意思決定システム	24	
2-7 情報システム	25	
基準 3 教育活動	26	
3-8 目標の設定	27	
3-9 教育方法・評価等	28	
3-10 成績評価・単位認定等	31	
3-11 資格・免許取得の指導体制	32	
3-12 教員・教員組織	33	
基準 4 学修成果	35	
4-13 就職率	36	
4-14 資格・免許の取得率	37	
4-15 卒業生の社会的評価	38	
基準 5 学生支援	39	
5-16 就職等進路	40	
5-17 中途退学への対応	41	
5-18 学生相談	42	
5-19 学生生活	44	
5-20 保護者との連携	46	
5-21 卒業生・社会人	47	
基準 6 教育環境	49	
6-22 施設・設備等	50	
6-23 学外実習、インターンシップ等	51	

6-24 防災・安全管理 5 2

基準7 学生の募集と受入れ 5 4

7-25 学生募集活動 5 5
7-26 入学選考 5 7
7-27 学納金 5 8

基準8 財務 5 9

8-28 財務基盤 6 0
8-29 予算・収支計画 6 2
8-30 監査 6 3
8-31 財務情報の公開 6 4

基準9 法令等の遵守 6 5

9-32 関係法令、設置基準等の遵守 6 6
9-33 個人情報保護 6 7
9-34 学校評価 6 8
9-35 教育情報の公開 7 0

基準10 社会貢献・地域貢献 7 1

10-36 社会貢献・地域貢献 7 2
10-37 ボランティア活動 7 4

4 2019年度重点目標達成についての自己評価 7 5

学校の概要

1. 学校の設置者

埼玉福祉保育医療専門学校は学校法人東京滋慶学園が設置しています。

学校法人東京滋慶学園は共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人です。

2. 開校の目的

現在の日本は、かつて経験したことのないスピードで少子高齢社会へと突き進んでいます。そして、年を追うごとに「福祉」「保育」「医療」が社会的な課題となっています。それに伴って個人の「福祉」「保育」「医療」に対する意識にも大きな転換が求められていくでしょう。

これからは、高齢者も障がいのある方も子育てをしている方も、地域で共に暮らしていく社会づくりが推し進められると同時に、医療・福祉を担う人材の養成が必要になってきます。

埼玉県及び近県の各種施設からも、地元の高校生に「福祉・保育・医療職養成校で知識・技術を修得し、その地域の福祉の中心的な役割を果たしてほしい」という期待が寄せられています。また、「地域の福祉・保育・医療を充実させていく」という社会的要請も含めて、専門人材に対する需要が日増しに高まっているのです。そして、実習と実践的な科目を中心とした学校生活を経験することによって今後の医療・福祉を担う人材が求められています。

そんな社会の声、期待に応えるのが、埼玉福祉保育医療専門学校です。

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 青木猛正 所在地 埼玉県さいたま市大宮区仲町3-88-2 連絡先 048(649)2331

学校の概要

4. 学校の沿革、歴史

- 1996年 学校法人埼玉福祉学園の認可、介護福祉士養成施設・社会福祉主事任用資格養成施設機関の指定を受け、埼玉福祉専門学校を開校。
- 2000年 埼玉福祉専門学校 第2校舎完成。
- 2003年 厚生省より介護福祉士養成施設（夜間部）の指定を受ける。
- 2005年 埼玉県より児童福祉科の新設が受理される。
- 2006年 埼玉福祉専門学校 第3校舎完成。
- 2008年 厚生労働省より社会福祉士養成施設の指定を受ける。
埼玉県よりキャリアデザイン・コミュニケーション科を受理される。
埼玉福祉専門学校第3校舎を分離し、埼玉ベルエポック製菓専門学校を開校。
- 2011年 埼玉県にこども福祉科Ⅱ部（夜間部）の新設が受理される。
- 2014年 介護福祉士科が職業実践専門課程として認可を受ける。
- 2015年 介護福祉士科Ⅱ部、社会福祉士科が職業実践専門課程として認可を受ける。
- 2017年 埼玉県及びさいたま市より保育士養成施設の指定を受ける。学校名を埼玉福祉・保育専門学校に変更
- 2020年 埼玉県より言語聴覚士養成施設の指定を受ける。学校名を埼玉福祉保育医療専門学校に変更
- 2021年 法人合併により、設置者が学校法人埼玉福祉学園から学校法人東京滋慶学園に変更

5. その他の諸活動に関する計画（防災計画）

学内子育て広場「エンゼルキッズ」を定期開催。地域の子育て支援を学生主体で実施。

避難・防災訓練：毎年6～7月に実施（昼間課程および夜間課程でそれぞれ実施） AED研修：毎年9月に職員を対象に実施

学内オレンジカフェ（認知症カフェ）：地域包括支援センター白菊苑の職員との共催にて、学内オレンジカフェの企画・運営を実施。

介護福祉士科1・2年生の通常授業に地域包括職員も参加し、大宮区の高齢者情報や、認知症の方との接し方を学びながら、学生主体で準備をした。

当日は多数の地域高齢者がオレンジカフェに参加した。

自己点検・自己評価に対する姿勢

2005年3月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校の持つ職業教育力の特長は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。一人ひとりの学生を目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり**職業人教育※は、専門学校においてのみ可能なこと**です。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※の開発に取り組んできました。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズをふまえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っていきます。

※ 職業人教育 職業人教育を我々は以下のように定義します。

職業人教育=キャリア教育+専門職業教育

キャリア教育とは、職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育

専門職業教育とは、特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育

※ 教育システム 広義の教育システムを「養成目的と教育目標」(養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標)、「目標達成プロセス」(カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス)、「目標達成素材」(教科書、教材、教育技法)、「目標達成支援人材」(担任、専任講師、非常勤講師)、「評価基準」(透明性、公平性、競争性)の5要素で考えています。

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行なうにあたり、**学校関係者評価委員会**を組織します。本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は学生保護者、卒業生、関係業界、高等学校、地域住民、自治体関係部局などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行ない、学校関係者からの理解と参画を得て、意見、評価をもらいます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果すとともに、地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

教育理念

① 実学教育

各々の業界で活躍するため、その業界で仕事をするための基本的な技術、知識を学びます。また、資格を取得する必要がある場合は、それに合格しうる技術・知識を習得してもらうことを何より大切と考えています。即戦力となる為に学力（技術力・知識力）を磨くわけです。

実学教育の要となる教育システムが LT2 教育システムです。LT 2 教育システムは、見て (LOOK) 、体験して (TRY) 、聴いて (LISTEN) 、考える (THINK) というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育を実践します。

② 人間教育

いかに技術的に優れても人間性に欠けていたら決して信頼される人間にはなりません。「今日も笑顔でいさつを」の標語がいたるところに掲示されており、笑顔のあいさつから一日を始めることを大切なことにしています。

授業・研修等の種々のカリキュラムを通じて「人の大切さ」の精神を育み、心の問題を考え社会人としての基本的なマナーはもちろん、ビジネスマインドをしっかりと持ち、社会人としての身構え、心構えをしっかり持った人材の育成に努めています。

また、社会的に自立するために必要とされる知識、技術、態度、考え方を身に付け、その時の役割に応じた求められる行動を習慣化できるように学ぶキャリア教育の実践にも力を入れています。

③ 国際教育

グローバル社会では、あらゆるジャンルにおいて外国の方々とビジネスをすることが普通のこととなるでしょう。また、インターネットを通じたコミュニケーションも益々増加していきます。国際化＝英会話とのみ考えるのではなく、コミュニケーションの手段として英会話（英語理解力）は大切な要素となります。相手のことを考え、相手の国のことを考えることも大切なことです。同時に自国のこと（歴史・文化・伝統）、自分のことを良く知り主張できることも大切です。つまり国際的な感性を学び知ることの方がもっと大切です。

留学生との交流・海外研修・英会話授業・インターネット利用等を通じて国際性を高め、国際的な感性を身につけてもらうことを建学の理念としています。

学校の目標

5カ年の目標(2017年度から2022年度までの5年間に、以下の目標を達成します)

1. 進級率95%にする。
2. 専門職就職率95%以上を毎年継続する（※1）
3. 1年以内の離職者を0にする（※2）

※1 専門職就職率

就職希望をする学生のうち、学んだ専門分野での就職をする率。

※2 1年以内の離職

学校を卒業し、就職した後、1年以内で離職した者

目標の意図

1. 専門学校の中退がきっかけでニート、フリーターになるリスクは高く、その予防は社会的使命といえます。また、中退は学生個人の問題に帰属するととらえず、私たちの教育力、学生支援力に課題があるととらえ、教育力の向上に取り組んでいます。
2. 学生が学んだ専門性を活かした就職ができるかが専門学校の教育力の価値になると想っています。単なる就職ではなく、専門就職にこだわり、データを公表しています。専門職就職率という用語は本校独自のものであり、他の大学、専門学校を含めてデータを公表している学校はまだ少ないと言えます。
3. 就職した学生が1年以内に離職してしまうということは、就職先の方針と本人のやりたいことが合わなかった可能性が高く、学校のキャリア支援に問題があると言えます。このようなミスマッチを0にすることを目指とし、そのために就職後の卒業生の情報収集とキャリア支援を徹底して行なっています。

目標を達成するための方策

1. 教育

多様な学生を育成できる「プロ担任育成」、学科ごとのフロー型キャリア教育システムの完成

2. 就職

業界とのミスマッチをなくした就職支援、研修・講習会・勉強会など行政と協力しての業界貢献

3. 広報および学生サービス

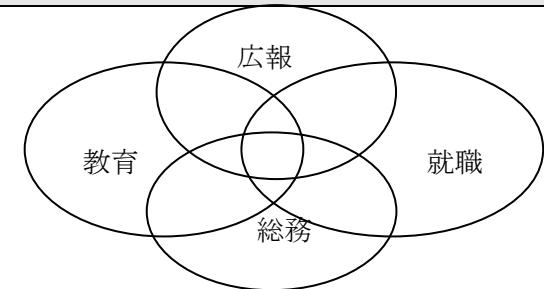
他の学校とは違った当校の強みである教育内容や学校生活を入学希望者に理解しやすい表現や媒体を使用して広く情報を伝える。また、一人ひとりに合わせた入学前教育として早期から職業教育の展開、学費サポートシステム確立による学生の就学サポート充実、マネー教育の浸透と推進

学校組織の整備

①サッカー型組織

私たちの学校は大きく4部門（教務、企画、就職、総務）で構成しています。それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。

機に応じて役割が変化したり、通常の役割を越えて働くことを良しとする、サッカー型の組織を理想としています。



②職務分掌

理事会	グループ総長	滋慶学園グループ全体の運営方針、人事の決定を行う。
	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行う。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行う。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	副校长	学校長を補佐・代行し、学校業務の質と実績を高めるために助言・諸活動を行う。
	本部長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行う。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	教務部長	学校運営全ての業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現に向け諸活動を行う。
	学部長・学科長	学部・学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行う。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し積極的にその諸活動を行う。

学校組織の整備

③学習する組織

私たちの学校は、学内において教職員が組織的に学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

1. 知の蓄積と伝承を促す組織的学習システムの構築

学習グループの推奨 学校の基本単位は教務部と事務部で、それぞれ学部、学科、センターがあります。5名内外のメンバーで構成されるそのチームを学習グループとして位置づけます。また、クロスファンクショナルなチーム（プロジェクトや委員会など）も同様に学習グループとして位置づけ、自問自答と対話と探求による学習を行います。

2. 自問自答と対話と探求による意思決定システム

自問自答 会議・研修は事前準備され、目的、議題、資料などは事前に参加者に配布します。参加者は事前に自分なりの考え方と、なぜ自分はそう考えるのかを問い合わせながら参加します。主催者は、あらゆる個人のあらゆる問い、疑問、質問を尊重し、傾聴する場づくりに努めます。大切なのは自答ではなく、自問です。考え、調べ、学ぼうとする個の力を育成するのがねらいです。

対話（ダイアローグ） 主催者はすべての参加者が役職や立場などに関わりなく平等に議論する場をつくるよう努めなければなりません。主催者と参加者は、対話の結果たどり着いた合意が、単なる妥協や組織内政治の結果ではないか、本質的な問い合わせになっているか、組織の原則・基本理念と整合しているか、をよく検証する必要があります。

探求（根拠を問う）の推奨 問いや主張が対立し、平行線をたどるような場合、相互の主張や考え方の背後にある事実やデータについて議論するよう、心がけなければなりません。それが主張する推論の根拠を問い合わせ、誰が正しいのか？ではなく、なにがより筋の良い問い合わせであり、仮定であるかを大切にします。

会議のシステム

グループ会議

- 【E A S T 戦略会議】 月 1 回
- 【分野別戦略会議】 月 1 回

学内会議

- 【全体会議】 月 1 回 全教職員
- 【運営会議】 月 1 回 局長、部長、学科長、センター長
- 【広報会議】 月 1 回 センター長、広報スタッフ、推薦者
- 【部署別、センターワーク】 月 1 回 各所属部署スタッフ
- 【T B M (Tool Box Meeting)】 朝礼、昼礼、終礼、他適宜

学校組織の整備

④ 意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方法	目的	実施回数	主催者	対象者
常務会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関	8回／年	総長	常務理事・指名者
EAST 戦略会議	グループ最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行う。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	9回／年	常務理事	本部長・指名者
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行う。学科長クラスの目標達成力及び問題解決力を育成強化する。	1回／月	事務局長	部署リーダー
全体会議	建学の理念、4つの信頼を基に第5期5ヶ年計画と2013年度事業計画の諸方針に従った日常業務の遂行方法を学ぶ。学科部署を越えた共通の課題から、特に重要な問題について認識を共通にする。	1回／月	事務局長	全教職員
部署別会議	各部署の年度目標達成に向けて発生する様々な問題を協議、解決する。	1回／月	部署リーダー	全教職員
広報会議	学校の広報について、定量・定性の両面から分析し、問題解決をする。	1回／月	広報リーダー	部署リーダー
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に協議する。	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について時間をとって話をすることにより、スタッフ、トレーニーへのハウツーやスキルを伝え、問題解決、発見につなげる。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ/トレーニー
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善をはかる。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・昼礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする	毎日	事務局長	全教職員
議題・議事録	議題配信：事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信：決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	議長・書記	参加メンバー全員

※ O・N・O ONE・ON・ONE の略 1対1の面談

学校組織の整備

⑤ 滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所（略称 JESC、以下 JESC という）は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための職員の研鑽と人材育成の場として毎年開催しています。
J E S C 教育部会 福祉教育部会	福祉・保育に関連する学科、コースを設置している学校で部会活動を行っています。活動内容は、情報収集、資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験問題作成などです。
教務マネジメント研修	教務マネジメントに携わるマネジャーを対象に研修を行い、教務マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と、直接学生と接点を持つ前教職員が 2 年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識技術を活かし、学生カウンセリングを行っています。
OJT トレーナー研修	新入職者に対してトレーナーとしての心構え及びトレーナーに求められるスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行っています。

⑥ 学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 カ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	教務の基本原則の確認と担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行っています。
広報（入学前教育）研修	広報は入学前教育の考え方をもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適正に合わせた進路指導ができるよう研修しています。

2021年度の重点課題

■学校リニューアルとイノベーション

2022年4月 学科のリニューアル パティシエ科、カフェ総合科を廃止、製菓衛生師科をパティシエ科1年制に変更

2023年4月 さいたまIT・WEB専門学校を新設 さいたま福祉保育医療製菓調理専門学校に名称変更、調理師科、パティシエ科1年制を統合

■さいたまDX

【広報】入学案内廃止（募集要項と統合）、CRMを活用したリードナーチャリングの強化、学内SNS更新の可視化パネルの設置など
オンラインとリアルのハイブリッド型オープンキャンパスの確立

【教育】全教室をIT教室可（ひとりデスク＆電源）、スマホキャンパス強化など

【就職】求人入力の自動化など

【校務】掲示板・申請書類の廃止（Liny）、全館オートロック（電子学生証）など

【労務】ABW（職員室フリーアドレス化含む）、セキュリティ強化

■IT企業との産学連携強化で特長あるカリキュラムに

さいたまIT・WEB専門学校の産学連携先の協力により、各学科のカリキュラムにIT企業とのコラボ科目を入れる。

介護：介護ロボット、保育：幼児教育アプリ開発、言語：リハビリIT教材

調理・製菓：デジタル画像・動画制作など

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校法人埼玉福祉学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション（使命）としている。建学の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」を実践し、4つの信頼（①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼）を得られるよう学校運営をしている。</p> <p>また、その理念と学校のミッションに基づき、各学科の養成目的、教育目標を定めているが、これには教育課程編成委員会や各業界からヒアリングを受け作成し、教育活動での具現化を目指しているが業界変化、学生の多様化等、環境の変化が激しい中で改革・改善を求められるが遅れがちである。</p>	<p>理念に基づいた運営は概ねできている。文化や考え方の継承と理念に基づいた具体的な教育の実践が課題となっている。</p> <p>そのために、朝礼、会議、研修等で理念の具現化を組織で取り組み、全ての部署・職員が共通言語で理念を理解できるよう努めている。</p> <p>学内で作成される企画は全て目的・目標を明記し、理念や考え方の確認と共有がされるようになってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none">・建学の理念 「実学教育」「人間教育」「国際教育」・教育課程編成委員会 年2回委員会実施。委員には業界団体役職員、学術機関有識者、企業・関係施設役職員に参加してもらい、カリキュラム改定の意見や業界の今と未来をヒアリングさせて頂いている。・滋慶語録を全職員が所持し、理念の共有を図る環境づくりを促進している。・3つのPを学校、学科で掲げ、育成人材像を明確化している。

最終更新日付 2021年5月12日 記載責任者 高平 敦

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	<input type="checkbox"/> 理念に沿った目的・育成人材像になっているか <input type="checkbox"/> 理念等は文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 理念等において専門分野の特性は明確になっているか <input type="checkbox"/> 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか <input type="checkbox"/> 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか <input type="checkbox"/> 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか <input type="checkbox"/> 理念等の浸透度を確認しているか <input type="checkbox"/> 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	3	教育理念（建学の理念）養成目的、教育目標を文書として明記している。 学園の理念は普遍のものであるが、時代や環境の変化に合わせて学科のイノベーションを図っている。	特になし		事業計画 教育指導要領 学生便覧 入学案内
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	<input type="checkbox"/> 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか <input type="checkbox"/> 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	3	教育課程編成委員会や実習指導者懇談会、実習巡回時のヒアリング等を通じて必要な人材像、カリキュラムを構築している。(2020年度は新型コロナ対策の為、縮小延期等を行った)	特になし	特になし	教育課程編成委員会議事録 実習指導者懇談会資料

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	<input type="checkbox"/> 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか <input type="checkbox"/> 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか <input type="checkbox"/> 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		東京都介護福祉士会、埼玉県介護福祉士会、埼玉県社会福祉士会、埼玉県老人福祉協議会、さいたま市社会福祉協議会等と連携している。			
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 特色ある職業実践教育に取組んでいるか	3	L T 2 教育システム、MMP プログラムなど独自のカリキュラムに基づいた現場力教育を行っている。	学科ごとの特色を優先して、学校全体の教育システムの実践は弱まつてきている。	学科会議、教務会議での討議が必要。	教育指導要領
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	<input type="checkbox"/> 中期的(3~5 年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を教職員に周知しているか <input type="checkbox"/> 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	3	事業計画は 5 カ年で計画しており、また周知するための研修や会議等システムが存在する。	特になし	特になし	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園の理念に基づき事業計画を5カ年で計画し、それに基づいた学科の配置、改変、学科の養成目的、教育目標を決定、文書化して職員間で共有している。また、これらの作成に当たっては、教育課程編成委員の皆様や業界関係者の意見も参考にしている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>諸環境の変化に対応できるように事業計画については毎年中長期（5年）と、短期（1年）を展望し、作成している。</p> <p>事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決済を受け、承認を得ることになっている。それを受け、毎年3月の初旬に学校の事業計画の研修を行い、全教職員へ周知徹底している。</p> <p>事業計画において、組織図、職務分掌、各種会議の意思決定システム（コミュニケーション一覧）が明確に示されている。</p> <p>運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われている。事業計画書の組織図には、学校に関わるすべての人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。</p> <p>財務に関しては、関連会社に委託しており、学校は学校の仕事に集中できるようになっている。人事・給料規定も学園として定められており、それに基づき運用されている。</p>	<p>学校運営に関しては事業計画に基づき、適正に行えている。課題としては、長期事業計画の目的・目標を職員が理解し、主体的に業務改善、イノベーションを実践できる組織とリーダーを作り上げること。</p> <p>また、意思の決定、問題解決のスピードを早くし、働き方の改革・改善の実践。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の構成 <p>①組織目的（普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的）</p> <p>②運営方針（中期的に組織として目指していく方針）</p> <p>③実行方針（中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針）</p> <p>④定量目標（受験者、教育成果（中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等））</p> <p>⑤定性目標（人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標）</p> <p>⑥実行計画（その方針を実現するための詳細な計画）</p> <p>⑦組織図（単年度）</p> <p>⑧職務分掌</p> <p>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</p> <p>⑩附帯事業計画</p> <p>⑪職員の業績評価システム</p> <p>⑫意思決定システム</p> <p>⑬収支予算書（5ヵ年計画）</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 運営方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか <input type="checkbox"/> 運営方針を教職員等に周知しているか <input type="checkbox"/> 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	3	事業計画を5ヵ年で作成、周知するための研修、会議がシステムとして運用している。 浸透度の確認としては、学園のパーソナルアンケートやONOミーティングなどがある。	特になし	特になし	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画の浸透を図るため、拡大常務会、EAST戦略会議、分野別戦略会議、運営会議、部署会議を設置、また年度当初に行うスタート式、スタート研修を実施している。また、学内ではONOミーティングなどを通じて理解度の個人差を埋める工夫をしている。	拡大常務会（学園） EAST戦略会議（EASTグループ） 分野別戦略会議（EASTグループ） 運営会議（学校） 部署会議（部署） ONOミーティング（個人）

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	<input type="checkbox"/> 中期計画(3~5年程度)を定めているか <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画を定めているか <input type="checkbox"/> 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	3	チェック項目は全て事業計画に定めている。見直しは四半期ごと運営会議で行っている。	特になし	特になし	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画は単年度だけではなく、中長期の計画で立てている。組織目的、目標、運営方針、実行方針、実行計画、組織は毎年研修や会議を通じて浸透を図っており、運用に問題はない。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	<input type="checkbox"/> 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか <input type="checkbox"/> 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか <input type="checkbox"/> 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	理事会は年3回開催され、議事録も作成している。寄付行為も適宜変更している。	特になし	特になし	理事会資料
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか <input type="checkbox"/> 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか <input type="checkbox"/> 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 会議、委員会等の議事録（記録）は、開催毎に作成しているか <input type="checkbox"/> 組織運営のための規則・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	3	組織図、職務分掌、会議日程は全て事業計画に記載して共有している。また就業規則も定められ閲覧できるようになっている。	特になし	特になし	事業計画 就業規則

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	<input type="checkbox"/> 学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
組織運営についても全て事業計画で定めている。 教職員の意見や考えが業務改善につながるよう、情報の共有に努めている。 各部署、役割担当一覧を作成し、個々の役割・責任を明確にすると共に常に見直しを図っている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	<input type="checkbox"/> 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか <input type="checkbox"/> 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	3	学園本部による人材採用、給料規定が定められている。昇任、昇格も目標管理制度に基づき業務を点数化しシステムとして機能させている。	特になし	特になし	給料規定 目標管理制度

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事・給料に関する規定は学園として定めており、運用は関連会社が事務手続きを行っている。	目標管理制度は、学校目標、チーム目標、個人目標、チャレンジ目標による点数化、業務に対する取り組みなど情意効果を合わせて行っており特色があり、2019年度より改訂され、より分かりやすいものになった。

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	<input type="checkbox"/> 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	3	意思決定システム、責任者も事業計画に記載されている。	特になし	特になし	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務については関連会社と連携しながら事務手続きをしている。意思決定システムと権限は事業計画に記されている。	(株)滋慶サービス 給料、私学共済などの手続、教材発注など学校のサポート企業

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	<input type="checkbox"/> 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか <input type="checkbox"/> これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか <input type="checkbox"/> 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか <input type="checkbox"/> データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか <input type="checkbox"/> システムのメンテナンス及びセキュリティー管理を適切に行っているか	3	AS 400 システムで広報～在学中～卒業後まで一貫した情報管理を行っている。また、近年では業務システムに移行しながら、利便性を高めている。 iPad による出席登録を行っており、担任は学生の出欠情報を机上の PC で確認できるようになっている。 5月をデータープライバシーマンスと指定して、各 PC のデータの適正化、不要なデータ削除を実施している。 個人情報の取扱いについては日本プライバシー協会の研修を全教職員が受講し、修了すると共に定期的な更新講習を行っている。	人為的なミスを減少させることが今後の課題である。	講師への個別対応を実施する。	AS 400 システム iPad (画面)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報は入学前～在学～卒後まで一貫して AS400 というコンピュータシステムで管理している。メンテナンスも BSC という関連会社が必要に応じて行っている。	AS 400 システム iPad 出席入力システム (株) BSC : コンピュータ関連のメンテナンスを行うサポート企業

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生指導要領（学生便覧）には各学科の養成目的、教育目標、学年目標、目標取得資格、成績評価規準を明記している。</p> <p>授業は上記に基づき、シラバス、コマシラバス、小テストがシステムとして運用されている。また授業アンケート、オープン授業を年2回実施している。（2020年度は新型コロナ対策の為、縮小、延期 等を行った）</p> <p>開講以来の組織の目標として</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職就職100%（学科で取得した知識・技術を活かした仕事に就く） 2. 中途退学者0名（入学した学生の夢の実現支援） 3. 資格取得100%（専門就職に必要な資格を必ず取得） <p>を掲げており教育システムの構築に力を入れてきた。</p>	<p>教育システム（教育のデジタル化）は整備されつつあるが、それを実際に行う講師への理解浸透が課題。講師によって教育システムへの対応力に興味関心に差があるのが現状。</p> <p><u>2019年度より2020年度の方が浸透はしていることは間違いないが、まだ全員とはいえない。</u></p> <p>時代の変化に伴う教育システムの運用について定期チェックが必要。</p>	<p>1. PCP教育システム 入学前から卒業後までの一貫した人材育成のためのシステム。入学前に自分の夢や将来の仕事を見いだし（自己発見）、在学中にその夢の実現に向けて変身していき（自己変革）、そして卒業後あこがれの職場でプロとしての自分を完成させていく（自己実現）。こうしたフローでのプロセス全体を総じて呼ぶ。</p> <p>2. MMPプログラム（M…Motivation、M…Mission、P…Professional） 自立したプロの職業人として業界で活躍するために必要な能力である「モチベーション（動機づけ）」「ミッション（使命感）」「プロフェッショナル（職業的な知恵）」という3つの能力を修得する教育プログラムで構成されている。</p> <p>3. (LT)²教育システム (LT)²教育システムは、以下の4つのステップに従って、「学習動機付け」と「自立学習」にポイントを置くフロー教育。 見学学習（Look）体験学習（Try）講義（Listen）研究（Think）</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者
高平 敦		

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか <input type="checkbox"/> 職業教育に関する方針を定めているか	3	教育課程編成委員会の規定を定め、それに基づいて実施している。	特になし	特になし	教育課程編成委員会規定
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	<input type="checkbox"/> 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか <input type="checkbox"/> 教育到達レベルは、理念等に適合しているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	3	教育指導要領(学生便覧)に全て記載している。 資格取得に向けては通常授業、通常授業外でも対策授業を実施している。 国家試験対策センターでデータの分析、対策研修、教育分科会を実施している。	特になし	特になし	教育指導要領(学生便覧)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育指導要領(学生便覧)には養成目的、教育目標、キャリア教育マップ、学年目標、学期ごとの目標を学科ごとに定めている。	

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか <input type="checkbox"/> 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか <input type="checkbox"/> 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか <input type="checkbox"/> 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	3	教育課程編成委員会の規定を設け、学科ごとに年2回開催し、カリキュラム作成に活かしている。 講義・演習・実習は教育指導要領に記載し学生に説明している。 シラバス、コマシラバスを全ての授業で導入し、具体的な到達目標を示している。また、その到達具合を図るための小テストを毎授業で実施している。 学園グループの福祉教育分科会にて他校の成功事例を学び教育内容、方法、授業計画等の改善に活かしている。 目標達成人材をデプロマポリシーで明示している。	カリキュラム改定の根拠やプロセスを明確化するとともに、その効果をどのように図るかを明確にする必要がある。	教務部長を中心に各学科で検討を進め、記録を残す。	教育指導要領 シラバス 3つのP

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
3-9-1 続き	<input type="checkbox"/> 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか <input type="checkbox"/> 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか <input type="checkbox"/> 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているか <input type="checkbox"/> 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか	3	学科ごとのシラバスと毎回の授業の内容を示すコマシラバスをMoodleへの掲載はほぼできている。			
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	<input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか <input type="checkbox"/> 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	3	教育課程編成委員会のみならず、OBOG就職相談会等、業界と連携しての行事、実習巡回を通じて業界や卒業生の意見を積極的に取り入れている。	特になし	特になし	
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	<input type="checkbox"/> キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか	3	キャリア教育ロードマップを作成し、授業や行事等体系立てた教育を実践している。	特になし	特になし	キャリア教育マップ

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 続き	<input type="checkbox"/> キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか		<p>これまで実績のない就職先を優先に内定先訪問をキャリアセンターが主となり実施。</p> <p>新卒1年目を対象に離職調査を兼ねて就業状況アンケートを実施している。</p> <p>また、実習中の巡回指導の際には卒業生の状況についてもヒアリングをしている。</p>			
3-9-4 授業評価を実施しているか	<input type="checkbox"/> 授業評価を実施する体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか <input type="checkbox"/> 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	2	<p>前期1回学生による授業アンケートを実施している。</p> <p>年1回の講師面談にて、授業アンケートの内容をフィードバックしている。</p>	<p>授業アンケートの結果を適切なタイミングで講師にフィードバックできていない。</p>	<p>アンケート実施前に実施期間・実施方法、フィードバック期間・担当者までを明確にした企画書を作成、共有する。</p> <p>フィードバック後の授業見学や講師との打ち合わせのスケジュールを予め決め効果測定を実施する</p>	授業アンケート

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程編成委員会を中心に業界の意見を取り入れ、それを養成目的、教育目標、シラバス、コマシラバスに落とし込んでいる。</p> <p>授業についてはアンケートを実施し、講師へのフィードバックを行っているが、改善につながっているかの検証方法に課題がある。</p>	<p>シラバス コマシラバス 授業アンケート</p>

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか <input type="checkbox"/> 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	3	評価基準は学則で定めており、学生便覧に記載し学生への説明を行っている。 講師会議で成績評価(GPA評価)に関する研修を実施している。 定期試験と小テストの運用で、日々の学習が成果に繋がるしくみとしている。進級卒業判定会議にて成績評価について認定している。	特になし	特になし	学則 学生便覧 小テスト 教務マニュアル
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	<input type="checkbox"/> 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	分野特性で対外的なコンテスト等はないが、卒業研究や学習成果発表等の内容についてはレジメを冊子(2020年度はデータ化した)にしてまとめている。	特になし	特になし	卒業研究 学習成果発表 レジメ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価は学則に明確にしており、学生便覧で明示している。学生の研究状況も卒業研究レジメの冊子(データ化)を残している。	

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	<input type="checkbox"/> 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか <input type="checkbox"/> 資格・免許の取得に関する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	3	取得目標資格は学生便覧に記載しており、また資格取得に向けて対策授業も行っている。 WEBでの国家試験対策も行っている。	特になし	特になし	学生便覧 J-WEB
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	<input type="checkbox"/> 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	3	国家試験不合格者への卒業後の支援は無料（授業料）で行っている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科ごとに国家試験のほか、取得目標資格を定めており、合格に向けた対策授業、WEBを使った模擬問題なども実施している。 模擬試験結果の到達状況によって、該当学生に対し、追加の対策も実施している。	

最終更新日付 2021年5月12日 記載責任者 高平 敦

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	<input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか <input type="checkbox"/> 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか <input type="checkbox"/> 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか <input type="checkbox"/> 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 教員の採用計画・配置計画を定めているか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか <input type="checkbox"/> 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	3	講師契約は毎年更新し、そのたびに履歴書、資格取得の免許写し、実務経歴書も確認している。 教員の採用計画も事業計画に記載しており計画的な人事採用を行っている。 教員の資格・実務経験などもシラバスに記載している。 人材確保においては業界団体のホームページに掲載するなど連携を図っている。	特になし	特になし	契約書類一式 事業計画 シラバス

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	<input type="checkbox"/> 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか <input type="checkbox"/> 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	2	常勤職員については学園の研修、外部研修を通じて資質の向上に努めている。 また、講師向け研修会を実施している。 学園グループの教育研究・研修期間（JESC）にて教育学会を開催し教職員の教育活動を支援している。	授業改善の活動の取組が不足している。	成功事例の集約と水平展開。	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 分野毎に必要な教員体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか <input type="checkbox"/> 専任・兼任（非常勤）教員間の連携・協力体制を構築しているか	2	教務部長、学科長を中心に教員集団の資質向上に努めている。 役割一覧にて教育の責任は明確になっている。 FD（教務）研修の開催。 担任を中心に非常勤講師との情報共有を頻繁に実施している。	非常勤講師と情報共有はしているが、連携についてはまだ課題があり、学科によって連携協力体制に差がある。	講師とのコミュニケーション方法のシステム化、研修会、勉強会の検討	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員の資質向上については、常勤職員は各種研修によって図られている。講師の資質向上、講師との連携については対策を打っているが、課題が残る。	ICT を用いた授業展開は、コロナ禍でのオンライン授業対応によりノウハウは習得したが、全講師にはまだ浸透しているとは言えない。

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>1) 就職 今年度コロナ禍においても、求人の大幅減少ではなく、就職率への大きな影響はなかった。また、2020年度新たに導入した Liny・zoom を用い個別対応もより、適時に行うことができた。</p>	<p>在校生一人ひとりの状況を担任、キャリアセンター及び奨学金情報を把握している学生サービスなど関係者が把握し、学生と就職先とのマッチングを総合的に判断する。</p> <p>卒業生の情報については、元担任が個人知としてもついている場合が多く、今後システムとして学校全体の財産となるように整備を進める。</p>	<p>卒後1年離職調査 退学目標、就職内定目標と合わせて、卒業後1年以内の離職を0にする目標を持って、毎年調査を実施している。2019年度卒業生の離職率は5.4%（前年5.6%）となっている。</p>
<p>(2) 退学率 2019年3.1%、2020年は3.7%と3%台を維持できるようになった。ただし1年生の進級率は89.9%と90%を切っているので、1年生学生対応が課題である。中途退学率の低下傾向は細やかな個別対応を強化した成果ではあるが、今後は病気への対応など新たな対策が必要。</p>	<p>生涯就職支援を掲げ、卒業後の職場とのミスマッチに個々に対応している。</p> <p>卒業生の情報についてはシステム化して管理し、常に更新できる状態にある。</p>	<p>同窓会の開催 卒後半年の卒業生を対象に、今後のキャリアアップ、離職を防止するための講演会、座談会を実施している。</p> <p>卒後1~20年目の方々の各段階に合わせた分科会の開催を予定していたが、コロナウイルスの影響で中止となった。</p>
<p>(3) 資格取得 毎年、年度当初に資格取得目標を立てている。開校以来、各学科のカリキュラムは専門資格取得のための、受験対策を含めて立てている。</p>		<p>国家試験合格祝賀会 社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験、介護福祉士国家試験合格者に対して祝賀すると同時に卒業後のネットワーク強化、キャリアアップを図るための研修及び懇談会を実施してきたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。</p>

最終更新日付	2020年5月10日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 就職率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動を把握しているか <input type="checkbox"/> 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 関連する企業等と共に「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか <input type="checkbox"/> 就職率等のデータについて適切に管理しているか	3	就職者率、内定率は目標設定している。学生の活動状況は就職システム（業務システム）で随時更新し情報共有している。就職行事も年間を通じて行っており、データも一元管理している。 例年行われてきたOBOG就職相談会等の就職行事は感染予防対策の観点から全学科共通の集合型ではなく、学科ごとの授業と連動した内容でオンラインや形式を変えて実施した。 分野ごとの新しい就職情報や傾向をキャッチするとともに現在の学生の就職意識や特徴などを伝えるなど情報交換を行って	新卒学科と性質の異なる社会福祉士養成科の就職活動	学科ごとの役割分担を明確にした就職支援	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職率の向上を目指し、目標設定、情報共有、業界との連携行事を行っている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	<input type="checkbox"/> 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか <input type="checkbox"/> 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか <input type="checkbox"/> 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか <input type="checkbox"/> 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	3	資格ごとに合格率目標を事業計画で定めており、全国平均との比較をし、日々精査している。 国家試験対策研修会に参加（2020年は中止）し、国家試験対策授業、模擬試験、教科書教材等の見直しを図っている。	介護福祉士科において、【留学生】の合格率が極端に悪かった（14名中5名合格、9名不合格）	留学生の個別面談、日本語対策・国家試験対策を通常授業以外で組む。	事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
取得資格は資格ごとに目標設定し、その目標達成に向けた対策講座を行っている。学園には国家試験対策センターもあり、学校のみならずグループ校とも連携し資格取得に向けた取り組みを行っている。	J E S C 国家試験対策センター 学年内の国家試験合格に向けた模擬試験の実施、試験問題の分析、研修を行う部署

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	<input type="checkbox"/> 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか <input type="checkbox"/> 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	2	卒後1年の離職調査を行い、業務システムに情報集約している。 「卒業生インタビュー」を学校HPに掲載。卒業生の活躍から福祉の魅力を発信している。	卒業生は当時の職員を通じてのつながりが基本の為、卒業生の動向がわからない世代がある。(現在の職員とのかかわりが薄い世代)	同窓会でのネットワーク再構築。 卒業生に対しても学校公式LINEの登録を促す。各施設に一斉配信する。	離職調査結果 業務システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の情報は離職調査や実習巡回など情報収集に務めているが、その情報を職員間で共有し、広報することには課題がある。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生支援は、①就職②学費③学生生活④健康などの分野で行っている。学生支援の体制として、これらの分野それぞれに対応できる担当部署や専門担当者を置いている。</p> <p>①就職支援 キャリアセンターを中心に担任と連携し一人ひとりにあった就職、また待遇面のしっかりした就職情報を提供している。</p> <p>②学費支援 学生サービスセンターを中心に各種奨学金、修学資金の相談窓口を設け、保護者説明会等を通じた保護者への説明を実施している。</p> <p>③生活支援 学生相談室、滋慶トータルサポートセンターを設け、生活・人間関係などの相談を行い支援している。</p> <p>④健康支援 慶生会クリニックと連携して健康診断、2次健診など健康管理を促している。 S S C (学生相談室) を設置し、臨床心理士が対応している。</p>	<p>生活保護世帯や母子家庭など経済的に困難な受験生に対する学校独自の奨学金は制度としては完全には整理できていない。今後原則としてのルール作りが必要になる。また、現在は多くないが今後留学生に向けた支援も必要となる。</p> <p>学費不安、家族間の問題等、個々の学生の状況に対応できるよう、情報を集約すると共に、研修を通してマニュアル等を活用しながら全ての教職員が一定の対応ができるようにする。</p>	<p>学生相談室・滋慶トータルサポートセンター 学内には専任カウンセラー1名、非常勤カウンセラー2名を配置し生活相談にのっている。また学園としてカウンセラーへのスーパーバイズ、低学力学生への学習サポートを行う滋慶トータルサポートセンターを設置している。</p> <p>慶生会クリニック 学園グループの提携医療機関。健康師団や内科診療を行い学生の健康管理をサポートしてもらっている。</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者
高平 敦		

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか <input type="checkbox"/> 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか <input type="checkbox"/> 就職説明会等を開催しているか <input type="checkbox"/> 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか <input type="checkbox"/> 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	3	キャリアセンターと卒業学年担任とは朝礼・終礼の日々ツールボックスを行い情報共有している。また、業務システムでも活動状況を共有している。説明会の実施も業界と連携し行っている。学生ポータルサイトを通じて求人票及び就職マニュアルを閲覧でき、保護者も含めた就職情報共有ができる。	1年制学科の就職に向けた動機付け及び新卒ではない未経験社会人学生(委託訓練生・40代以上の学生の)の就職マッチング。	個人に合わせた就職支援のより一層の強化。 キャリアプランシートの作成とジョブカードを活用した面談の実施の強化。	就職活動マニュアル 業務システム 学生ポータルサイト

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
就職の学生指導はキャリアセンターと担任で情報共有しながら進めている。また就職活動マニュアルを作成し履歴書の書き方、訪問の仕方など学生に指導している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	<input type="checkbox"/> 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか <input type="checkbox"/> 指導経過記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか <input type="checkbox"/> 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	3	<p>退学数は開講以来数字で集約、分析している。また学生相談室を設置し連携している。</p> <p>年1回のキャリアサポートアンケートにて個人の状況を把握し学生サポートに活かす。</p> <p>合理的配慮の実施や研修を実施して一人ひとりの課題に対応している。</p>	<p>12名の退学者のうち、10名が1年生。1年に特化した学生対応が課題。</p> <p>学科により理由は分かれる傾向にある。クラス内の人間関係や授業内容に起因した資格取得へモチベーションの低下、精神的な疾患によるなどが主要因。</p>	<p>問題発生後に早期対応と継続支援するための担当者を明確に設定する。</p> <p>状況を業務システムに記録し、関係者で確認。</p> <p>休学者対応は担当を明確にして行う。</p>	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
退学要因の分析は学内のみならず、学園の教育改革センター、学生相談室（JTSC）と連携している。退学目標は0名を目指している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか <input type="checkbox"/> 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか <input type="checkbox"/> 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか <input type="checkbox"/> 相談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 関連医療機関等との連携はあるか <input type="checkbox"/> 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	3	専任カウンセラー1名と非常勤カウンセラー2名を配置している。またJ T S C (滋慶トータルサポートセンター)とも連携し、様々なケースに対応している。	精神疾患の相談件数が増加しており、医療機関との連携が必要なケースもある。その際保護者の理解が得られないケースの関わりが難しい。 また、カウンセリングの継続動機付けが難しい。	非常勤講師、医療機関と連携を組み、対応策を検討していく。 また、カウンセリング継続動機付け方法を検討していく。	
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	3	留学生窓口として教職員を配置。複数人で留学生支援チームを結成し月1回の情報交換の場を作り、学習、学生生活、私生活等での問題解決を行なっている。	国家試験対策、職場の受け入れ態勢整備。 日本語学校から講師を招聘し特別授業を開講。	学園グループの留学生支援センターを設置する。 国家試験については、介護福祉士科教員にて留学生限定の対策授業を構築	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生相談に関しては、専任カウンセラーを中心に機能しているが、精神疾患など重篤なケースも増えているので医療機関等との連携が今後の課題。留学生については担任を中心に就労先の施設、関連企業と情報を共有し、学校生活から日常生活までのサポートができる体制を作る。</p>	<p>J T S C (滋慶トータルサポートセンター) 本部国際センター、留学生支援センター</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校独自の奨学金制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 学費の減免、分割納付制度を整備しているか <input type="checkbox"/> 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか <input type="checkbox"/> 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	3	<p>日本学生支援機構の奨学金利用者は増えており、学生サービスセンターが手続、返還案内等行っている。また保護者への説明として保護者会を実施している。</p> <p>家庭での支援が充実するよう保護者との面談を強化している。</p>	生活保護世帯や児童養護出身者など、家庭での支援が望めない学生、経済的困難者に対して個別に対応しているが、制度として整えていく必要性がある。		
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学校保健計画を定めているか <input type="checkbox"/> 学校医を選任しているか <input type="checkbox"/> 保健室を整備し専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 定期健康診断を実施して記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 有所見者の再健診について適切に対応しているか	3	<p>保健室の専門職員は居ないが、看護師、介護福祉士の有資格者がおり、対応している。健康診断も毎年実施している。</p> <p>相談室では精神的な相談を受け付けている。</p>	2次検診対象者の受診率が100%にならない。	該当者の共有を実施。 担任からの受診促進。	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	<input type="checkbox"/> 健康に関する啓発及び教育を行っているか <input type="checkbox"/> 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか <input type="checkbox"/> 近隣の医療機関との連携はあるか		感染拡大予防対策として、全学生に対して日々の体温を記録した健康観察カードの作成と登校時の提示を徹底している。			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか <input type="checkbox"/> 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか <input type="checkbox"/> 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	3	学校運営の寮はないが、提携寮が男女それぞれ2つある。実際には埼玉県外からの入学は少なく、寮の利用も多くはない。	特になし	特になし	
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか <input type="checkbox"/> 大会成績など実績を把握しているか	3	S CWクワイヤーは高齢者施設や地域行事等で公演を年10回程度行っており、また学生スタッフ活動も地域活動を行い貢献している。 ※2020年度はコロナ禍で実施できていない。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生支援については、経済面、健康面、課外活動など概ねできている。	

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	<input type="checkbox"/> 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか <input type="checkbox"/> 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 緊急時の連絡体制を確保しているか	3	<p>「一人ひとりを大切に」をキーワードに、保護者会、保護者との個別面談などを適宜実施している。</p> <p>また、成績通知は年2回発送している。</p>	協力が得られない家庭への対応。	カウンセラー含め学科職員で共有して学校の出来ることを探りながら対応する。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「一人ひとりを大切に」を教育のキーワードとして、学習面、生活面、精神面で課題のある学生の保護者とは個別面談を通じて連携している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか <input type="checkbox"/> 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか <input type="checkbox"/> 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	3	<p>同窓生主催の同窓会を開催。キャリアアップに合わせた分科会や相談会を実施。会報も作成。</p> <p>今年度の同窓会はコロナ禍のリスク回避のため中止。</p> <p>再就職支援についてはzoomによるオンライン相談で実施する他、対象となる卒業生には就職ポータルサイトのIDを発行し、在校生向けの求人票を閲覧できるように対応している。</p>	<p>卒業生のキャリア段階に合わせた卒後教育としての同窓会の開催。</p> <p>集合型同窓会の限界</p>	<p>Zoom(ウェビナー)やLINE等のSNSを活用したオンラインでの実施</p>	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか <input type="checkbox"/> 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力をしているか	3	<p>「O B相談会」など業界連携をしている。</p> <p>卒業生も対象としたウェビナーを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度 実績 <p>保育：汐見稔幸氏 『少子高齢化の今、なぜ保育が大切になったか』</p>	<p>イベント時の卒業生への告知</p>	<p>2020年度卒業生よりLINEで案内を行っていく。</p>	

5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	<input type="checkbox"/> 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか <input type="checkbox"/> 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	3	<p>社会人入学者は毎年3割程度いる。コロナ禍の不況もあり、社会人学科である社会福祉士養成科は例年より多くの学生が入学している。</p> <p>ICT環境が学生にとって、かえって不利とならないように、事前アンケートの実施とともに整備した上で迎えている。</p> <p>学校案内や説明会で対応している。図書室には司書を配置し自習環境も整えている。</p>	<p>就職においては単に分野の適性にとどまらず年齢・家庭状況・職務経歴を前提とした支援を要する。</p> <p>Jobカード作成支援</p>	
---------------------------------	---	---	--	--	--

5-21 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
同窓会活動は、同窓生が主体になって活動が行えるようになった。 産学連携については系統的で教育成果に直結する取り組みが課題。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>施設・設備・備品・図書などはそれぞれの養成施設の法令に基づいて整備している。また関連会社（ジケイスペース株）による建物点検、防災点検、計画的な補修計画などを立てており、管理されている。</p> <p>実習については、学科ごとに実習要綱を作成し、それに基づいた実習を行啓と連携を図りながら進めている。</p> <p>防災については、埼玉ベルエポック製菓調理専門学校と合同で避難訓練を実施している。また非常時には2校のインカム（トランシーバー）で連絡を図りながら対応できるように整えている。ただし、非常時の備蓄食料や水などについて保管場所がなく充分とはいえない。</p> <p><u>2020年度については、校舎のWi-Fiを完備し、すべての教室にIT教卓・PC・書画カメラ・プロジェクター・スクリーンを配備した。ペーパーレスも含め、配布資料を極力少なくし、学生が持つスマートフォンやタブレット、PCなどから授業資料を閲覧できるようにした。</u></p>	<p>防災について、非常時の備蓄食料などは保管場所を検討し備えておく必要がある。</p>	<p>実習室 第1校舎：PC室、演習室 第2校舎：介護実習室、入浴実習室、保育室、キャリアセンター、家政室、図書室、ピアノ実習室、学生ホール</p> <p>教職員が防災マニュアルを携行し、非常に起こりうることへの対応を講師、学生に常に啓蒙している。</p>

最終更新日付 2021年5月12日 記載責任者 高平 敦

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	<input type="checkbox"/> 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか <input type="checkbox"/> 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか <input type="checkbox"/> 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか <input type="checkbox"/> 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備のバリアフリー化に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 卒業生に施設・設備を提供しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	3	<p>指定規則と同等またはそれ以上の設備、備品を整えている。設備については点検、整備含め関連会社が行っており計画的に改修も行っている。</p> <p>卒業生対象に図書室の開放と貸し出しを行っている。</p> <p>滋慶スペースによる施設・設備等の保守、入れ替え等の 10 年計画を立案。その計画に基づいた予算を事業計画に盛り込み実行。</p>	特になし	特になし	DUCE (関連会社) 校舎図面

6-22 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備については法令に基づいたものであり、メンテナンスも関連会社によって管理されている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参考資料
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	<input type="checkbox"/> 学外実習等について、意義や教育課程上の位置づけを明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について、実施要綱・マニュアルを整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 関連業界等との連携による企業研修等を実施しているか <input type="checkbox"/> 学外実習について、成績評価基準を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学外実習等について実習機関の指導者との連絡・協議の機会を確保しているか <input type="checkbox"/> 学外実習等の教育効果について確認しているか <input type="checkbox"/> 学校行事の運営等に学生を積極的に参画させているか <input type="checkbox"/> 卒業生・保護者・関連業界等、また、学生の就職先に行事の案内をしているか	3	<p>実習については、学科ごとに実習要綱を作成している。例年行う全学科共通の実習指導者懇談会はコロナ禍の感染リスクもあり中止または、形式を変えて実施。</p> <p>また巡回指導でも実習指導者と連携を図り学生を指導支援している。</p> <p>コロナ禍における養成校の規定に基づき電話やzoomを用いた巡回指導を行った。</p> <p>地域連携の学内実習を昼間部の各科にて学生が主体となって運営している。</p> <p>介護：オレンジカフェ 保育：エンゼルキッズ 言語：ことばの教室</p>	特になし	特になし	実習要綱 実習日誌

6-23 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
実習については学科ごとに要綱を作成し、業界と連携しながら実施している。	オンラインや説明動画を用い実習先との連携を図っている。また、就職に関するセミナーも学科ごとに実施され、業界連携の場となっている。

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルを整備しているか <input type="checkbox"/> 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づきを行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 防災（消防）訓練を定期的に実施し、記録を保存しているか <input type="checkbox"/> 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか <input type="checkbox"/> 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	3	埼玉ベルエポック製菓 調理専門学校と連携して防災訓練を実施している。施設の耐震化などは関連会社に管理してもらい適正である。非常時には2校のインカム（トランシーバー）で連絡を取りながら対応できるようになっている。	特になし	特になし	防災マニュアル 避難訓練企画書
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 学校安全計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	3	防災マニュアルは学園として規定している。また携帯用の防災マニュアルも全学生に持たせて危機管理を行っている。 非常時持ち出し用の名簿も職員室内に置いてある。	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	<input type="checkbox"/> 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
東日本大震災以降、防災に対する意識は高まっている。対策などマニュアルを作成しており、防災訓練も実施している。非常時の食材や防災グッズについて保管場所について検討する必要がある。	防災マニュアル

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>本校は、埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（推薦入試による受け入れ人数等）を遵守している。また過大な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適正に学生募集が出来るように配慮している。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページ、SNSを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。</p> <p>これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるもの個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、厳重に管理し、流失および他目的使用のないように管理の徹底と個人情報についての研修をおこなっている。</p> <p>また、入学者と財務の整合性についてはグループ企業（滋慶サービス）とも連携し適切に運営できるようにしている。</p>	<p>ここ数年、入学定員を充足できていない。学科のイノベーションを図ると同時に、業界と連携した福祉職・保育職・医療職そのものの地位向上を目指した広報活動が必要。今後も高等学校教員や高校生の保護者へ正しい情報を伝え、誤った認識の払拭は課題。</p> <p>昼間学科とは顧客層のことなる夜間部の募集に課題が大きく、大卒者をターゲットとした新たな取り組みが必要。</p> <p>また、業界、地域、社会の変化に合った新たな資格取得、学び方を追求していく。</p> <p>イノベーションを速やかにできる組織作りが重要。</p>	<p>入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。</p> <p>入学試験終了後は、校長・事務局長・教務部長・広報センター長（事務局）、全学科長により構成される、「選考会議」により合否を確定する。面接結果・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来福祉・保育・医療業界で働く意欲と適性があるか総合的に判断している。</p> <p>学納金や預かり金、教材及び講師の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。</p> <p>各学科から、素案として提出されたものを、全学科責任者参加の運営会議でチェック確認を行い、その結果を最終的に学校事務責任者がチェックしている。</p> <p>保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を明示し、期の途中で追加徴収を基本的に行わないようにしている。</p>

最終更新日付 2021年5月12日 記載責任者 高平 敦

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか <input type="checkbox"/> 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか <input type="checkbox"/> 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	3	埼玉県専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいて募集活動を行っている。募集目的のみならず福祉・保育・医療職の正しい理解を得るために高校訪問、説明会も参加している。	介護分野への高等学校教員の正しい理解が得られない。(介護は3Kの仕事のような認識)	高校訪問を中心に福祉・保育・医療分野の正確な情報提供を実施。 また、教育委員会や校長会をも巻き込んだ福祉・保育・医療分野の仕事説明会を関連団体や県の所管と連携し実現をめざしたい。	
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	<input type="checkbox"/> 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか <input type="checkbox"/> 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか <input type="checkbox"/> 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか <input type="checkbox"/> 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	3	上記同様、ルールに沿った募集を行っている。 卒業生の活躍を学校案内等に掲載し、就職分野や進路先の理解、教育を中心とする学校の理解が得られるように工夫をしている。	特になし	特になし	入学案内 各種ツール

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	<input type="checkbox"/> 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか <input type="checkbox"/> 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取り入れているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学生確保のための活動は創意工夫して実施しているが、埼玉県専修学校各種学校協会の定めたルールにそって実施している。高等学校との連携も強化しているが、課題としては福祉職の誤った認識（大変な仕事、低賃金）があり、今後は入学生確保のみならず業界の地位向上のための働きかけを業界とともにを行う必要がある。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか <input type="checkbox"/> 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	3	募集要項に選考基準や入試方法は記載されており、入試ごとに判定会議を行って公平な審査が行われている。	特になし	特になし	募集要項
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	<input type="checkbox"/> 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか <input type="checkbox"/> 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか <input type="checkbox"/> 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	3	数値データは毎月行われる運営会議でチェックしながら分析、対策を打っている。財務を担う関連会社とも適宜打ち合わせを行い実学生数と財務の数字をチェックしている。	特になし	特になし	

7-26 (2/2)

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考の詳細については募集要項に全て記載し、説明会などでも説明している。入試も規定を設け、公平な審査によって実施されている。学生数と財務の整合性も関連会社と情報共有している。	(株)滋慶サービス 財務に関する管理を行う関連会社

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	<input type="checkbox"/> 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか <input type="checkbox"/> 学納金の水準を把握しているか <input type="checkbox"/> 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	3	入学初年度のみならず、卒業までにかかる学費諸費用について募集要項に明示している。また諸費用算定にあたっては、事前に見積もりをとり、それに基づいた徴収額を学内で決定している。	特になし	特になし	募集要項
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	<input type="checkbox"/> 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	3	入学前の3月末までの申し込みに対して学費返金は明示し、実際に返金している。	特になし	特になし	募集要項

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学費は学則どおり、諸費用は事前見積もりを取り徴収額を決定している。またそれら金額は入学初年度のみならず卒業までにかかる費用として募集要項に記載している。辞退者に対する返金も規定を設けて実施している。	

基準8 財務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>5年を見越した中長期的事業計画を毎年立て、収支計画も作成している。収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認されている。</p> <p>また、学園の本部機能は、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。</p> <p>また、財務監査は学園本部監査スケジュールを元に、会計監査人（公認会計士）、監事、理事メンバーで実施されて、健全な財務体制を築いている。</p> <p>さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開の体制を下記の通りとっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> I. 組織体制 <ul style="list-style-type: none"> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. (学校事務担当者) II. 公開書類 <ul style="list-style-type: none"> 1. 財務諸表（財務目録・貸借対比表・収支決算書） 2. 事業報告 3. 監査報告書 <p>この体制を2015年4月から実施、情報の公開開示も実施している。</p>	<p>財務の体制、情報公開については、現状を維持し、透明性のある運営を心がけていく。</p>	<p>学園本部は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業計画の収支計画のチェック 2. 消費収支計算書予算対比 3. 資金収支内訳表 4. 人件費支出内訳表 5. 消費収入内訳表 6. 固定資産明細票 7. 借入金明細表及び基本明細票 <p>を、管理・運営し、学校の経営を支えている。</p> <p>財務の責任体制も明文化されており</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法人統括責任者（常務理事） 2. 学校統括責任者（学校運営の現場責任者＝事務局長） 3. 学校事務担当者（学校の経理責任者＝学生サービスセンター長） <p>この組織体制と、公認会計士の監査のもと、適正な財務監査を実現している。</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者
高平 敦		

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	<input type="checkbox"/> 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか <input type="checkbox"/> 収入と支出はバランスがとれているか <input type="checkbox"/> 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか <input type="checkbox"/> 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか <input type="checkbox"/> 設備投資が過大になっていないか <input type="checkbox"/> 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	2	5カ年の中長期事業計画で収支計算を行っている。またその予算執行状況を四半期ごとにチェックし修正しながら適切な予算運用をしている。設備投資についても財務状況を見ながら5カ年計画を立てている。	定員充足はしていない。	廃科、定員変更、新学科の設立など、イノベーションを実施。	
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	<input type="checkbox"/> 最近3年間の収支状況（消費収支・資金収支）による財務分析を行っているか <input type="checkbox"/> 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	3	関連会社による財務の監査、分析を行い適正な運営をしている。またその連携によって学校としても予算執行を管理している。	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	<input type="checkbox"/> 最近3年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか <input type="checkbox"/> キャッシュフローの状況を示すデータはあるか <input type="checkbox"/> 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか <input type="checkbox"/> コスト管理を適切に行っているか <input type="checkbox"/> 収支の状況について自己評価しているか <input type="checkbox"/> 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか					

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務については関連会社とも連携し、5ヵ年での予算執行計画、チェック、分析を行っており透明性の高い運営ができている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	<input type="checkbox"/> 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか <input type="checkbox"/> 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	3	学科の変更などに伴う募集の費用や設備投資など5ヵ年で計画を立て運用している	特になし	特になし	
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	<input type="checkbox"/> 予算の執行計画を策定しているか <input type="checkbox"/> 予算と決算に大きな乖離を生じていないか <input type="checkbox"/> 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか <input type="checkbox"/> 予算規程、経理規程を整備しているか <input type="checkbox"/> 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理行っているか	3	「予算=決算」を目標に関連会社とも連携し透明性の高い予算執行を行っている。 学園内監査も行い、適正に運用されているかチェックを受けている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
事業計画に5ヵ年での教育目標、学科イノベーションを決めている。それに基づいた予算執行も同時に計画されている。関連会社のチェックや学内監査など複数の目で確認しながら予算執行を運用している。	

8-30 監査

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	<input type="checkbox"/> 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか <input type="checkbox"/> 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか <input type="checkbox"/> 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	3	会計監査は学校の利害関係者に対して法人等の正確かつ信頼できる情報を提供するために第三者による監査人（公認会計士及び監事）が監査を実施し、監査報告書の作成、理事会及び評議員会で報告している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監事による監査のほか公認会計士による監査も受けており、適正に実施できている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	<input type="checkbox"/> 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 公開が義務づけられる財務帳票、事業報告書を作成しているか <input type="checkbox"/> 財務公開の実績を記録しているか <input type="checkbox"/> 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取組んでいるか	3	情報公開規定、情報公開マニュアルを整備しており、それに基づいてホームページでも情報開示している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開規定、情報公開マニュアルを作成し、それに基づいた情報公開をしている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうかを判断している。</p> <p>現状では、学校運営/学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。</p> <p>また、組織体制強化やシステム構築にも努めている。</p> <p>(1) 組織体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ①財務情報公開組織体制（あり） ②個人情報管理組織体制（あり） ③広告倫理管理組織体制 ④地球温暖化防止委員会 ⑤進路変更委員会 <p>(2) システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④物品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム 	<p>個人情報保護に関する研修を常勤全職員に実施しているが、学校運営には多くの非常勤講師が携わるので、それらの方々に対する研修が必要となっている。</p>	<p>各調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校基本調査（文部科学省） 2. 社会福祉士、介護福祉士、保育士養成施設 年次報告（厚生労働省） 3. 社会福祉主事養成機関 年次報告（厚生労働省） 4. 自己点検・自己評価（私立専門学校等評価研究機構） 5. 学校法人調査（日本私立学校事業団） 6. 専修学校各種学校調査（埼玉県専修学校各種学校協会） <p>※調査内容：学校の現状</p> <p>在籍状況</p> <p>学生・生徒納付金調査</p> <p>卒業者の就職状況調査</p> <p>就職希望者内定状況調査</p> <p>財務状況調査</p> <p>財務情報公開に関する調査</p>

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	<input type="checkbox"/> 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか <input type="checkbox"/> 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか <input type="checkbox"/> 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	3	コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。 学園本部にはセクシャルハラスメントの相談窓口がある。 学生にはソーシャルメディアの適正な使用方法を含めコンプライアンスに関する教育を行っている。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
コンプライアンス委員会、個人情報保護委員会を設置し、法令遵守に努めている。設置基準、教員要件などは定期的に確認している。	

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	<input type="checkbox"/> 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか <input type="checkbox"/> 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3	就業規則に個人情報の取り扱いに関する規定も設け、全職員に対して個人情報保護の研修を実施している。学生についても現場実習における個人情報保護の授業を実施している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護方針、規定を定めて運営している。職員については外部による個人情報保護研修を実施している。学生についても実習時における個人情報漏えいに関する授業を実施し啓蒙している。 情報リテラシーは、全教職員、非常勤講師、在校生に対して、テスト形式で研修を徹底している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づき、学校改善に取組んでいるか	3	自己点検自己評価委員会を設け、年に 1 度点検会議を実施している。またその結果を学校関係者評価委員会で報告し意見をもらい改善している。	特になし	特になし	
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	ホームページで学校評価、財務状況、監査結果など公表している。	特になし	特になし	H P
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	<input type="checkbox"/> 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか <input type="checkbox"/> 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか <input type="checkbox"/> 設置課程・学科に関連業界等から委員を選任しているか <input type="checkbox"/> 評価結果に基づく学校改善に取組んでいるか	3	学則や規定は毎年見直し修正のある場合は届出を出している。教育課程編成委員会は 2 年ごとに任期を設け適切な方に評価していただいている。	特になし	特になし	
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	<input type="checkbox"/> 評価結果を報告書に取りまとめているか <input type="checkbox"/> 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	3	ホームページで公表している。	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
自己点検・自己評価委員会（年1回）、学校関係者評価委員会（年1回）、教育課程編成委員会（年2回）を実施し、その結果はホームページで公表している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	<input type="checkbox"/> 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか <input type="checkbox"/> 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	3	ホームページ上で学校情報の公開、さらにSNS やブログで教育活動を公開している。	特になし	特になし	H P

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
日ごろの教育活動はH P 上の SNS やブログで随時公開している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

基準10　社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学校の教室を地域に開放している。近隣自治会の会合や各種福祉施設や団体の研修会場等として活用していただいている。そのほかには子育支援の一環として「エンゼルキッズ」を毎週開催。地域の子育て親子が安心して集え、交流できる場所を提供するだけでなく、子育て相談や親子が一緒に楽しめるコンテンツ提供を教員と学生が行っている。</p> <p>地域の行事にも積極的に人的・物理的な協力をし、地域社会への貢献を図っている。施設や事業所でのボランティア活動も個別からサークルまで、多様な要請に可能な限り応じている。</p>	<p>今までの取り組みを教育システムに組み込む等、職業教育の一部として実施し、単位化することを検討。そのためには目的・目標及び評価基準の設定が重要。</p>	<p>地域と学校間の連携や行政との共同等 今までの取り組みに対して、大宮区地域振興貢献部門で選出され、大宮区長より、感謝状を贈呈されました。 1</p>

最終更新日付 2021年5月12日 記載責任者 高平 敦

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<input type="checkbox"/> 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか <input type="checkbox"/> 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか <input type="checkbox"/> 国や機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか <input type="checkbox"/> 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか <input type="checkbox"/> 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか <input type="checkbox"/> 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか <input type="checkbox"/> 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか <input type="checkbox"/> 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取組んでいるか	3	<p>精神保健福祉協会や自治会の会合場所として教室を提供している。</p> <p>地域の子ども食堂の開催場所として教室を提供している。</p> <p>ケアマネの講座など実施している。</p> <p>地域清掃、パトロールに職員、学生で積極的に参加している。</p> <p>地域包括支援センターと連携し、介護福祉士科にて【学内オレンジカフェ】を実施した。</p> <p>さいたま市私立保育園協会との産学連携でさいたま市と市内の特徴ある保育を学生が学び、魅力を発信する課題解決型プログラムを組んでいる。</p>	特になし	特になし	

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取組んでいるか	<input type="checkbox"/> 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか <input type="checkbox"/> 海外の教育機関と留学生の受け入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか <input type="checkbox"/> 留学生の受け入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取組んでいるか <input type="checkbox"/> 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取組んでいるか <input type="checkbox"/> 留学生の受け入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	2	ウエストフロリダ大学(UWF)と日米福祉学会を実施している。また、UWFからは日本での交流会も実施している。 また国際教育は建学の理念の一つでもあり、海外研修、国内で行う国際講座など実施している。 (2020年度は新型コロナ対策の為、縮小延期等を行った) <u>2020度留学生受け入れ人</u> <u>数は6名となった。</u> 日本語学校とも連携し、日本語トレーニングの授業も実施している。 ※留学生人数修正済み。	留学生の受け入れについては体制含め今後整えていく。	学園の留学生支援センターとの連携、留学生受け入れ実績校との連携を通じて外国人教育を構築していく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
国際教育は建学の理念の一つであり、海外研修、国際交流に力を入れている。特にウエストフロリダ大学と行う日米福祉学会は学生のみならず業界の方にも同行して頂き、日本とアメリカの福祉の未来を語り合う場となっている。2020年はコロナ禍で実施できていない。 留学生の受け入れ体制についても昨年より強化している。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	<input type="checkbox"/> ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか <input type="checkbox"/> 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を把握しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動実績を評価しているか <input type="checkbox"/> ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	3	学科掲示板にて学生の参加を積極的に促している。(2020年度は新型コロナ対策の為、縮小延期等を行った)	特になし	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティアの参加については、募集を積極的に行い、実績については、SNSを活用し、情報共有を図っている。	

最終更新日付	2021年5月12日	記載責任者	高平 敦
--------	------------	-------	------

4 2020年度重点目標達成についての自己評価

2020年度重点目標	達成状況	今後の課題
<p>■学校の新設・分離と統合運営イノベーション 既存の埼玉2校5分野に加え、新しい分野の学校・学科の新設を視野に、事務局部門を統合し、社会の変化、顧客の期待に応える俊敏性と柔軟性のある学校運営を実現する。</p> <p>■学校広報と教育・就職を連結する「さいたまV」(仮)の運営 労働人口の減少によって直面する課題の解決を目指した教育イベント「さいたまV」。福祉、医療、保育の3分野に加え、労働者に活力を与える製菓、調理の2分野、さらにスポーツやIT等の分野を加え、社会の高度化・複雑化・専門化に必要な人材育成を地域と連携して実現する。</p> <p>※各企業・団体には「さいたまV」のスポンサーになってもらう</p> <p>■マネージャーの育成 上記2つのイノベーションを実現するためには、マネージャーの育成が急務である。滋慶学園が大事にしている「人は仕事を通じて成長する」という考え方のもと、学習する組織、対話を重視するマネジメントを実現する</p>	<p>■学校の新設・分離と統合運営イノベーション 結果：◎ 新しい時代のスペシャリストを育成するため「さいたまIT・WEB専門学校（仮称）の事業計画を作成。2023年新学校設立とともに、2022年埼玉ベルエポック製菓調理専門学校的学科を再編成し、2023年に埼玉福祉保育医療専門学校と統合する事業計画を作成。その事前イノベーションとして、2021年より既存学校のデジタルトランスフォーメーション計画を立てた。</p> <p>■学校広報と教育・就職を連結する「さいたまV」(仮)の運営 結果：× 新型コロナウイルス感染症の感染拡大及びその予防措置により、様々なイベントが中止・延期・制限された。代替イベントとしてオンラインセミナー（介護・保育など）を実施したが、企業間連携の継続性について課題を残した。</p> <p>■マネージャーの育成 結果：△ 年間を通じて育成研修の実施やマネージャーとのコミュニケーションを重視してきたが、前半戦は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対応に集中したため、予定通りの実行とはならなかつた。 しかし、未曾有の事態にマネージャーがチームを取りまとめ、危機を回避、新しい生活様式に対応できたことは評価できると思う。</p>	<p>■さいたまデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進 2023年に新学校「さいたまIT・WEB専門学校（仮称）」設立、埼玉ベル・福祉の統合に向けて、成果につながる学校全体の業務改革、デジタル化を進めていく。</p> <p>■コロナ禍・コロナ後の学科イノベーションと産学連携の強化 2020年のコロナ禍で推進・実現した業務改善や新しい生活様式の下で得られたシステムを応用し、学科のイノベーションに活かしていく。また、2020年に課題となった産学連携についても、学科中心に強化していく。</p> <p>■マネージャーの育成 上記2つの取り組みを学科長や若いスタッフをリーダーに抜擢して実現することを通じて、マネージャーの育成を図っていく。</p>

